

2023年2月1日～2024年4月10日の間に 川崎医科大学附属病院においてAPTT(凝固検査)を受けられた方 及びご家族の方へ

「APTT 延長症例に対するクロスミキシングテストを用いた原因鑑別方法最適化の試み」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学附属病院	中央検査部	主任技師	今田昌秀
研究分担者	川崎医科大学附属病院	中央検査部	臨床検査技師	山本絵梨
	川崎医科大学附属病院	中央検査部	臨床検査技師	富岡菜々子
	川崎医科大学附属病院	中央検査部	臨床検査技師	大倉尚子
	川崎医科大学附属病院	中央検査部	部長	北中明

1. 研究の概要

活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) は、内因系の血液凝固能力を測定する検査で、未分画ヘパリン (抗凝固療法) や凝固因子インヒビター、ループスアンチコアグラント (LA) 等の循環抗凝血素、肝機能障害による凝固因子不足などで APTT が延長します。APTT 試薬は多くの種類の APTT 試薬が販売されており、当院で使用している APTT 試薬は LA を高感度に捉える試薬です。従来の試薬よりも高率に LA を捉えますが、APTT 延長の原因が凝固因子低下か循環抗凝血素かどうかによって臨床的な対処法が異なるため、原因を鑑別するためにクロスミキシング試験 (CMT) を実施しています。CMT は客観的判定法である数値判定法と併せて評価を行う必要がありますが、感受性の異なる試薬では共通の判断値は使用出来ず、数値判定法の判断値を使用試薬ごと設定する必要があります。今回、我々が使用しているレボヘム APTT における複数の数値判定法の判断値を算出し、CMT の最適化を目的とします。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2023年2月1日～2024年4月10日の間に川崎医科大学附属病院において、APTT (凝固検査) を検査された患者さま約 120 名を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2029年3月31日

3) 研究方法

2023年2月1日～2024年4月10日の間に川崎医科大学附属病院において、診療で実施された APTT (凝固検査) および、既存の検査項目 (PT、APTT、CMT、抗リン脂質パネル等) と欠乏血漿を用い疑似因子欠乏血漿を作成し、APTT 延長における CMT の複数の数値判定法について判断値 (カットオフ値) を求め最

適化を図ります。

4) 使用する情報の種類

情報：PT、APTT、CMT、抗リン脂質パネル、ループスアンチコアグラント、第 、 、 、 、 、 、 、 、 因子、年齢、性別、病歴、投薬歴 等

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学附属病院中央検査部内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存します。USBなどの別の電子媒体の場合もパスワードでファイル等を制御し保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2028年12月31日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

< 問い合わせ・連絡先 >

川崎医科大学附属病院 中央検査部

氏名：今田 昌秀

電話：086-462-1111 内線 23105（平日：8時30分～17時00分）

ファックス：086-462-1141

E-mail：imachan42@hp.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究は、学内研究費（北中明 教員研究費）を用いて行われる予定です。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。